



Dkt. 2271/62975

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

Application of: Koichiro MAEMURA

Serial No. : 09/653,994 Group Art Unit: 2622

Date Filed : September 1, 2000 Examiner:

For : COMMUNICATION TERMINAL DEVICE,
FACSIMILE DEVICE, AND A METHOD OF
CONTROLLING COMMUNICATION TERMINAL
DEVICE AND FACSIMILE DEVICE

1185 Avenue of the Americas
New York, N.Y. 10036

Assistant Commissioner for Patents
Box Missing Parts
Washington, D.C. 20231

CLAIM FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. §119

Sir:

Applicants' hereby transmits a certified copy of the following priority applications:

Application No. Filed in Japan

11-249630 September 3, 1999

and hereby claims priority under 35 U.S.C. 119.

Respectfully submitted,

Richard F. Jaworski
Registration No. 33,515
Attorney for Applicant
Cooper & Dunham LLP
Tel.: (212) 278-0400

I hereby certify that this paper is being deposited this date with the U.S. Postal Service as first class mail addressed to: Assistant Commissioner for Patents, Washington, D.C. 20231.	
 Richard F. Jaworski Date Reg. No. 33,515	



日本特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

1999年 9月 3日

出願番号
Application Number:

平成11年特許願第249630号

出願人
Applicant(s):

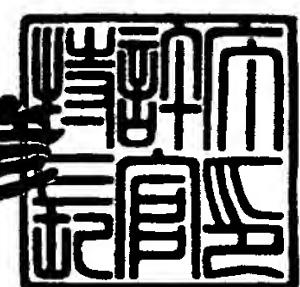
株式会社リコー

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

2000年 6月 29日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近藤 隆



出証番号 出証特2000-3050783

【書類名】 特許願

【整理番号】 9902046

【提出日】 平成11年 9月 3日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/32

【発明の名称】 通信端末装置、ファクシミリ装置及びそれらの制御方法

【請求項の数】 16

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

【氏名】 前村 浩一郎

【特許出願人】

【識別番号】 000006747

【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代表者】 桜井 正光

【代理人】

【識別番号】 100083231

【住所又は居所】 東京都港区新橋2丁目12番15号 田中田村町ビル8
01 ミネルバ国際特許事務所

【弁理士】

【氏名又は名称】 紋田 誠

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 016241

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808572

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 通信端末装置、ファクシミリ装置及びそれらの制御方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置において、

前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする通信端末装置。

【請求項2】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置の制御方法において、

前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とする通信端末装置の制御方法。

【請求項3】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置において、

発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶する通常通信管理手段と、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連

した通信管理情報と区別可能な態様で作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする通信端末装置。

【請求項4】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置の制御方法において、

発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶すると共に、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とする通信端末装置の制御方法。

【請求項5】 前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする請求項1または3のいずれかに記載の通信端末装置。

【請求項6】 前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする請求項2または4のいずれかに記載の通信端末装置の制御方法。

【請求項7】 現在日時を計時する計時手段を更に備え、前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に前記計時手段から読み出した日時情報を含むことを

特徴とする請求項1、3または5のいずれかに記載の通信端末装置。

【請求項8】 前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時における日時情報を含むことを特徴とする請求項2、4または6のいずれかに記載の通信端末装置の制御方法。

【請求項9】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置において、

前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項10】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置の制御方法において、

前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とするファクシミリ装置の制御方法。

【請求項11】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置において、

発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶する通常通信管理手段と、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情

報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とするファクシミリ装置。

【請求項12】 予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置の制御方法において

発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶すると共に、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とするファクシミリ装置の制御方法。

【請求項13】 前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする請求項9または11のいずれかに記載のファクシミリ装置。

【請求項14】 前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする請求項10または12のいずれかに記載のファクシミリ装置の制御方法。

【請求項15】 現在日時を計時する計時手段を更に備え、前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に前記計時手段から読み出した日時情報を含むことを特徴とする請求項9、11または13のいずれかに記載のファクシミリ装置。

【請求項16】 前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時における日時情報を含むことを特徴とする請求項10、12または14のいずれかに記載のファクシミリ装置の制御方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた、通信端末装置、ファクシミリ装置及びその制御方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

ファクシミリ装置等の通信端末装置においては、発信時には、所望の相手先を選択してデータを送信できる。しかし、着信時には、基本的には相手先を選択してデータを受信することはできず、データを受信後に、結果として、受信したくない相手先からの着信であったことを知ることになるため、受信する必要のないデータが、受信する必要のあるデータと混在して受信されてしまうことになる。

【0003】

具体的には、ファクシミリ装置であれば、例えば、日頃の通信相手ではない業者からのダイレクトメールのファックス文書が受信されて記録紙に記録されてしまい、記録紙が無駄になるばかりでなく、そのような受信する必要のない文書が、受信する必要のある文書と混在して受信文書の取り扱いが煩雑になる。

【0004】

そのため、従来の通信端末装置においては、受信する必要のある文書の送信元

となる相手先の識別情報（相手先識別情報）を予め登録しておいて、着信時に通知される相手先識別情報が、予め登録されているものである場合に限り着信を受け付け、予め登録されていないものである場合には通信を強制的に終了させて、無駄な受信を行わないようにした、受信拒否機能を備えたものがある。

【0005】

そのような受信拒否機能を備えた通信端末装置においては、受信を拒否する毎に、その受信拒否に関する情報を通知レポートとして出力するようにしたものがある（例えば、特開平3-205959号公報参照）。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、その場合、各件の受信拒否について1枚の通知レポートが出力されるために、記録紙の無駄が多く、また、各件の受信拒否に関する情報が分散してしまい、各件の受信拒否に関する情報がまとめて管理することが難しいという問題点があった。

【0007】

本発明は係る事情に鑑みてなされたものであり、受信拒否に係る通信に関する情報を集中管理することができる通信端末装置、ファクシミリ装置及びその制御方法を提供することを目的とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】

請求項1に記載の通信端末装置は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関する通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする。

【0009】

請求項2に記載の通信端末装置の制御方法は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置の制御方法において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とする。

【0010】

請求項3に記載の通信端末装置は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置において、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶する通常通信管理手段と、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする。

【0011】

請求項4に記載の通信端末装置の制御方法は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えた通信端末装置の制御方法において、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶すると共に、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信

拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とする。

【0012】

請求項5に記載の通信端末装置は、請求項1または3のいずれかに記載の通信端末装置において、前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする。

【0013】

請求項6に記載の通信端末装置の制御方法は、請求項2または4のいずれかに記載の通信端末装置の制御方法において、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする。

【0014】

請求項7に記載の通信端末装置は、請求項1、3または5のいずれかに記載の通信端末装置において、現在日時を計時する計時手段を更に備え、前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に前記計時手段から読み出した日時情報を含むことを特徴とする。

【0015】

請求項8に記載の通信端末装置の制御方法は、請求項2、4または6のいずれかに記載の通信端末装置の制御方法において、前記受信拒否通信管理情報記憶手

段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時における日時情報を含むことを特徴とする。

【0016】

請求項9に記載のファクシミリ装置は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする。

【0017】

請求項10に記載のファクシミリ装置の制御方法は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置の制御方法において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とする。

【0018】

請求項11に記載のファクシミリ装置は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置において、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶する通常通信管理手段と、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された

通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする。

【0019】

請求項12に記載のファクシミリ装置の制御方法は、予め受信許可相手先登録テーブルに登録した相手先以外からの受信を拒否する受信拒否機能を備えたファクシミリ装置の制御方法において、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して通常通信管理情報記憶手段に記憶すると共に、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する一方、前記通常通信管理情報記憶手段及び前記受信拒否通信管理情報記憶手段にそれぞれ記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を、発信または前記受信許可相手先登録テーブルに登録されている相手先からの受信に係る通信に関連した通信管理情報と区別可能な態様で作成し、その作成したリスト画情報を可視出力することを特徴とする。

【0020】

請求項13に記載のファクシミリ装置は、請求項9または11のいずれかに記載のファクシミリ装置において、前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする。

【0021】

請求項14に記載のファクシミリ装置の制御方法は、請求項10または12のいずれかに記載のファクシミリ装置の制御方法において、前記受信拒否通信管理

情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に通知される相手先識別情報を含むことを特徴とする。

【0022】

請求項15に記載のファクシミリ装置は、請求項9、11または13のいずれかに記載のファクシミリ装置において、現在日時を計時する計時手段を更に備え、前記受信拒否通信管理手段が収集して前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時に前記計時手段から読み出した日時情報を含むことを特徴とする。

【0023】

請求項16に記載のファクシミリ装置の制御方法は、請求項10、12または14のいずれかに記載のファクシミリ装置の制御方法において、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報は、着信時における日時情報を含むことを特徴とする。

【0024】

【発明の実施の形態】

以下、添付図面を参照しながら、本発明の実施の形態を詳細に説明する。

【0025】

先ず、図1は、本発明の実施の形態に係る通信端末装置としてのファクシミリ装置1のブロック構成を示している。

【0026】

同図において、ファクシミリ装置1は、システム制御部2、ROM3、RAM4、スキャナ5、プロッタ6、時計回路7、画像メモリ8、操作表示部9、符号化復号化部10、モデム11、網制御部12、及び、システムバス13により構成されている。

【0027】

システム制御部2は、ROM3に書き込まれた制御プログラムに従って、RA

M4 を作業領域として使用しながら、装置各部を制御するものである。

【0028】

ROM3は、前述したように、システム制御部2が装置各部を制御するための制御プログラムが記憶されているリードオンリーメモリである。また、ROM3には、各文字コードにフォントデータを対応付けたフォントテーブル3aが記憶されていて、システム制御部2は、文字列を画情報に変換する場合には、フォントテーブル3aを参照する。

【0029】

RAM4は、前述したようにシステム制御部2の作業領域として使用されるランダムアクセスメモリである。なお、RAM4は、図示しないバックアップ用回路によりバックアップされており、装置電源遮断時にも記憶内容は保持される。また、RAM4には、図2に示すように、自局識別情報4a、通信管理テーブル4b、及び、受信拒否相手先登録テーブル4cが予め記憶登録されている。自局識別情報4aは、G3ファクシミリプロトコルの伝送前手順において送信端末識別信号TSIや被呼端末識別信号CSIとして通信相手先装置に通知される情報であり、通常は、自局のファックス番号が登録される。通信管理テーブル4b、及び、受信拒否相手先登録テーブル4cについては後述する。

【0030】

スキャナ5は、3.85本/mm、7.7本/mm、15.4本/mm等の所定の読み取り線密度で原稿画像を読み取って画情報を得るものである。プロッタ6は、受信した画情報を、その線密度に応じて記録出力したり、スキャナ5で読み取った画情報を、その線密度に応じて記録出力（コピー動作）するためのものである。

【0031】

時計回路7は、現在の日付及び時刻を計時するためのもので、システム制御部2は、時計回路7を読み出すことで、現在の日付及び時刻を得ることができる。画像メモリ8は、送受信画情報の一時蓄積のためや、各種レポート画情報作成する際に、画情報を展開するために使用されるものである。

【0032】

操作表示部9は、相手先ファクシミリ番号を指定するためのテンキー、スタートキー、ワンタッチダイヤルキー、及び、その他各種キーが配設される一方、液晶表示装置等の表示器を備え、ユーザに知らせるべき装置の動作状態や、各種メッセージを表示するものである。

【0033】

図3に、本実施の形態と直接関係する部分以外は、図示を省略した操作表示部9の配置構成例を示す。同図において、テンキー9aは、送信相手先ファックス番号等を直接指定したりするために用いられるものである。【スタート】キー9bは、ファクシミリ送信動作の開始や、コピー動作の開始を指示するためのものである。【ストップ】キー9cは、各種動作の強制的な停止を指示するためのものである。【Yes】キー9d及び【No】キー9eは、ユーザに決定または取消の各種選択をさせるためのキーである。

【0034】

【ファンクション】キー9fは、ワンタッチダイヤルの登録機能、短縮ダイヤルの登録機能、ユーザパラメータの設定機能や、ファクシミリ装置1の標準的なファクシミリ装置としての機能以外の、時刻指定送信、部門コード指定送信等の拡張的な機能を呼び出すためのもので、この【ファンクション】キー9fを押下して、テンキー9aにより、各機能に対応した番号を入力することで、各機能を呼び出して実行することができる。

【0035】

表示器9gは、ユーザに知らせるべき装置の動作状態や、各種メッセージを表示するものである。

【0036】

図1に戻って、符号化復号化部10は、送信画像データを、G3ファクシミリに適合する、MH符号化方式、MR符号化方式、MMR符号化方式等の所定の符号化方式で符号化圧縮する一方、受信画像データをMH符号化方式、MR符号化方式、MMR符号化方式等に対応する所定の復号化方式で復号伸長するものである。モデム11は、G3ファクシミリモデムであり、網制御部12を介して公衆網に送信するデータを変調する一方、網制御部12を介して公衆網から受信した

信号を復調するものである。また、モデム11は、入力されたダイヤル番号に対応してDTMF信号の送出も行う。網制御部12は、公衆網に接続されて、回線の直流ループの閉結・解放や、回線の極性反転の検出、回線解放の検出、発信音の検出、ビジートーン等のトーン信号の検出、呼出信号の検出等の回線との接続制御や、ダイヤルパルスの生成を行うものである。システムバス13は、上記各部がデータをやり取りするための信号ラインである。

【0037】

ここで、G3ファクシミリにおける一般的な通信シーケンスについて図4を参考して説明する。

【0038】

同図において、発呼側は、着呼側の相手先装置に発呼して回線が確立されると、発呼トーンCNGで呼を指示し（フェーズF1）、着呼側が被呼局識別信号CEDで呼に応答する（フェーズF2）。

【0039】

そして、着呼側から送出されるディジタル識別信号DIS、非標準機能識別信号NSF、被呼端末識別信号CSIに対して、発呼側は、ディジタル送信命令信号DCS、非標準機能設定信号NSS、送信端末識別信号TSIを送出する（フェーズF4）。

【0040】

更に発呼側は、フェーズF4で通信パラメータを設定した上で、トレーニングチェック信号TCFにより、設定したモデム速度でモデムトレーニングを行い（フェーズF5）、着呼側からの受信準備確認信号CFRの受信を待って（フェーズF6）、画情報をファクシミリメッセージとして送信する（フェーズF7）。なお、フェーズF7でファクシミリメッセージとして送信するデータは画情報に限らず、G3ファクシミリの拡張機能であるBFT（Binary File Transfer）によるバイナリデータであってもよい。

【0041】

発呼側は、フェーズF7でファクシミリメッセージを送信すると、手順終了信号EOPを送出し（フェーズF8）、着呼側がメッセージ確認信号MCFで応答

してくると（フェーズF9）、切断命令信号DCNを送出して（フェーズF10）、ファクシミリ送信を完了する。

【0042】

このようにしてG3ファクシミリ通信は行われるが、フェーズF3における被呼端末識別信号CSIの送出により、発呼側は着呼側の相手先の識別情報を得ることができ一方、フェーズF4の送信端末識別信号TSIにより、着呼側は発呼側の相手先の識別情報を得ることができる。それらの被呼端末識別信号CSI及び送信端末識別信号TSIとしてやりとりされるのは、前述したように、RAM4に予め登録記憶された自局識別情報4aである。

【0043】

図5にRAM4に登録記憶されている受信許可相手先登録テーブル4cの具体的な内容について示す。同図において、受信許可相手先登録テーブル4cには、受信を許可する相手先の識別情報が登録されている。それらの登録されている各相手先の識別情報は、それら各相手先から受信時に送信端末識別信号TSIにより実際に通知される識別情報と同一のものである。

【0044】

図6にRAM4に登録記憶されている通信管理テーブル4bの具体的な内容について示す。

【0045】

同図において、通信管理用テーブル4bは、各通信に対応するレコード番号に対応した通信管理情報のレコードの集まりとして構成されている。

【0046】

各通信管理情報のレコードは、送信または受信の各件の通信を区別するために付された「ファイル番号」、通信の種別が送信または受信のいずれであるかを示す「送受信」、各通信を行ったときの日付を示す「通信日付」、各通信を開始した時点の時刻を示す「通信開始時刻」、G3ファクシミリプロトコルの被呼端末識別信号CSI、発呼端末識別信号CIG、送信端末識別信号TSI等により得られる通信相手先の識別情報を示す「通信相手先」、相手先と通信した際の交信モードを示す「交信モード」、通信に要した時間を示す「通信時間」、通信し

た画情報のページ数を示す「通信枚数」、通信結果が正常終了したか（OK）、正常終了しなかったか（E）、たまは受信拒否であったか（UC）を示す「通信結果」の各フィールドから構成されている。なお、「交信モード」のフィールドの文字列「G3」は、G3ファクシミリプロトコルで交信したことを示し、文字「E」は、G3ファクシミリプロトコルの付加機能であるECM（Error Correcting Mode）機能を併用して交信したことを示し、文字「S」、「D」、「F」は、それぞれ、送受信された画情報の線密度が3.85本/mm（ふつう字）、7.7本/mm（小さな字）、15.4本/mm（細かい字）の各線密度であったことを示し、文字「M」は、メモリ送信またはメモリ受信が行われたことを示すものである。また、「通信結果」における「UC」は、「Unauthorized Call」の略である。

【0047】

次に、ファクシミリ装置1におけるファクシミリ送受信処理手順について図7及び図8を参照して説明する。

【0048】

同図において、ファクシミリ装置1のシステム制御部2は、網制御部12により着信が検出されるが、スキャナ5に原稿がセットされるかを監視している（判断101のNo、判断101のNoループ）。

【0049】

着信があると（判断101のYes）、時計回路7から現在日時（日付と時刻）を通信開始日時として読み出し（処理103）、通信時間の計時を開始して（処理104）、着信に応答してG3ファクシミリプロトコルに基づいた伝送前手順を実行する（処理105）。その処理105の伝送前手順では、送信端末識別信号TSIとして送信元識別情報が受信される。

【0050】

そこで、処理105で受信した送信元識別情報を受信許可相手先登録テーブル4cと照合し（処理106）、その結果、処理105で受信した送信元識別情報がテーブル4cに登録されている場合は（判断107のYes）、その後のG3ファクシミリプロトコルに基づく伝送制御手順を継続してファクシミリメッセー

ジを受信するファクシミリ受信処理を行う（処理108）。そして、そのファクシミリ受信処理が正常終了した場合は（判断109のYes）、当該ファクシミリ受信に係る通信の通信結果を「OK」とし（処理110）、そのファクシミリ受信処理が途中で通信エラーが発生する等して正常終了しなかった場合は（判断109のNo）、当該ファクシミリ受信に係る通信の通信結果を「E」とする（処理114）。

【0051】

判断107において、処理105で受信した送信元識別情報がテーブル4cに登録されていない場合は（判断107のNo）、回線を強制的に切断して通信を中止し（処理112）、当該ファクシミリ着信に係る通信の通信結果を「UC」とする（処理113）。

【0052】

処理110、処理114または処理113の後は、今回着信した通信についての通信管理情報を作成して通信管理テーブル4bに登録する（処理111）。処理111で作成され登録される通信管理情報は、図6に示すように、他の通信管理情報のレコードに付されたものと重複しないファイル番号がフィールド「ファイル番号」として登録される。また、フィールド「送受信」として「受信」が登録される。また、フィールド「通信日付」として、処理103で読み出した通信開始日付が登録される。また、フィールド「通信開始時刻」として、処理103で読み出した通信開始時刻が登録される。また、フィールド「通信相手先」として、処理105の伝送前手順で受信した送信元識別情報が登録される。また、フィールド「交信モード」としては、判断107がYesとなってファクシミリ受信処理が行われた場合は、「G3」のほか、実際のファクシミリメッセージ受信の属性が登録されるが、判断107がNoとなってファクシミリ受信処理が行われなかった場合は「G3」のみが登録される。また、フィールド「通信時間」としては、処理104で計時を開始した通信時間の、回線を切断するまでの累積計時時間が登録される。また、フィールド「通信枚数」としては、判断107がYesとなってファクシミリ受信処理が行われた場合は、受信した画情報のページ数が登録されるが、判断107がNoとなってファクシミリ受信処理が行われな

かった場合は、枚数0が登録される。また、フィールド「通信結果」としては、判断107がYesとなってファクシミリ受信処理が行われた場合は、そのファクシミリ受信処理が正常終了したか否かに応じて「OK」または「E」が登録されるが、判断107がNoとなってファクシミリ受信処理が行われなかつた場合は、受信拒否を示す「UC」が登録される。

【0053】

さて、判断102において、原稿がセットされると（判断102のYes）、操作表示部9を介した宛先の指定入力があるかを監視し（判断115のNoループ）、宛先の指定入力がなされると（判断115のYes）、更に、送信開始を指示する【スタート】キー9bが押下されるかを監視し（判断116のNoループ）、【スタート】キー9bが押下されて発信開始が指示されると（判断116のYes）、時計回路7から現在日時（日付と時刻）を通信開始日時として読み出し（処理117）、通信時間の計時を開始して（処理118）、判断115で指定された宛先に発呼してG3ファクシミリプロトコルに基づいた伝送前手順を実行する（処理119）。その処理119の伝送前手順では、送信端末識別信号TSIとして自局識別情報4aが送信される。

【0054】

その後のG3ファクシミリプロトコルに基づく伝送制御手順を継続して判断102でセットされた原稿をスキャナ5で読み取って得た画情報をファクシミリメッセージとして送信するファクシミリ送信処理を行う（処理120）。そして、そのファクシミリ送信処理が正常終了した場合は（判断109のYes）、当該ファクシミリ送信に係る通信の通信結果を「OK」とし（処理112）、そのファクシミリ送信処理が途中で通信エラーが発生する等して正常終了しなかつた場合は（判断121のNo）、当該ファクシミリ送信に係る通信の通信結果を「E」とする（処理123）。

【0055】

処理122または処理123の後は、今回発信した通信についての通信管理情報を作成して通信管理テーブル4bに登録する（処理124）。処理124で作成され登録される通信管理情報は、図6に示すように、他の通信管理情報のレコ

ードに付されたものと重複しないファイル番号がフィールド「ファイル番号」として登録される。

【0056】

また、フィールド「送受信」として「受信」が登録される。また、フィールド「通信日付」として、処理117で読み出した通信開始日付が登録される。また、フィールド「通信開始時刻」として、処理118で読み出した通信開始時刻が登録される。また、フィールド「通信相手先」として、処理119の伝送前手順で受信した受信側の識別情報が登録される。また、フィールド「交信モード」としては、「G3」のほか、実際のファクシミリメッセージ受信の属性が登録される。また、フィールド「通信時間」としては、処理118で計時を開始した通信時間の、回線を切断するまでの累積計時時間が登録される。また、フィールド「通信枚数」としては、送信した画情報のページ数が登録される。また、フィールド「通信結果」としては、ファクシミリ送信処理が正常終了したか否かに応じて「OK」または「E」が登録される。

【0057】

このようにして、受信許可相手先登録テーブル4cに登録されていない、受信拒否すべき相手先からの着信に係る通信管理情報が、送信や、受信許可相手先登録テーブル4cに登録されている相手先からの受信に係る通常の通信管理情報と共に、通信管理テーブル4bに登録される。もっとも、受信拒否すべき相手先からの着信に係る、受信拒否の通信管理情報を、送信や、受信許可相手先登録テーブル4cに登録されている相手先からの受信に係る、通常の通信管理情報とは別のテーブルに登録するようにしてもよいが、受信拒否の通信管理情報を、通常の通信管理情報と共に通信管理テーブル4bに登録しても、「通信結果」のフィールドに「UC」が登録されているが否かによりいずれの種別の通信管理情報であるかを容易に識別できるため、本実施の形態では、受信拒否の通信管理情報を、通常の通信管理情報と共に通信管理テーブル4bに登録するようにしている。そのように通信管理テーブルを共用することで、受信拒否の通信管理情報を、通常の通信管理情報を扱うのと同様に取り扱え、通信管理情報の管理が容易になる利点がある。

【0058】

次に、ファクシミリ装置1における通信管理レポート出力処理手順について、図9を参照して説明する。

【0059】

同図において、システム制御部2は、操作表示部9を介して【ファンクション】キー9fの押下と、テンキー9aによる番号「50」の入力の組合せ操作があるか、すなわち、通信管理レポート出力モードが起動されるかを監視し（判断201のNループ）、通信管理レポート出力モードが起動されると（判断201のYes）、通信管理テーブル4bの登録内容に基づいてレポート画情報を作成し（処理202）、その作成したレポート画情報をプロッタ6により記録紙に記録出力することにより可視出力する（処理203）。なお、その場合のレポート画情報の可視出力形態は、操作表示部9の表示器9gへの表示によるものであつてもよい。

【0060】

図10に、図9の処理202により作成され、処理203により記録紙に記録出力される通信管理レポート例について示す。

【0061】

同図に示すレポートの内容は、通信管理テーブル4bの登録内容を、「送信」と「受信」に分類してリストにまとめたもので、従来の通信管理レポートと同様の形態であるが、通信結果が「UC」の受信拒否に係る通信についての通信管理情報が、混じって記載されていることが異なる。

【0062】

そのように、受信拒否に係る通信についての通信管理情報が、その他の通常の送信または受信に係る通信管理情報と区別可能な態様でリスト出力されることにより、受信拒否に係る通信についてのレポートを1件の受信拒否について1ページのレポートとして出力する場合と比較して、記録紙の無駄も省け、受信拒否に係る通信についての通信管理情報を、その他の通常の送信または受信に係る通信管理情報をと共に一括管理することができるようになる。

【0063】

もっとも、受信拒否に係る通信についての通信管理情報のみを、通常の送信や受信に係る通信管理情報とは別に扱って、例えば受信拒否の通信管理レポートとして、記録出力するようにしてもよい。その場合、受信拒否の通信管理レポートが1枚のレポートとして出力されることになり、受信拒否の通信に係る通信管理情報を、通常の通信に係る通信管理情報と分けて一括管理することができる。

【0064】

また、受信拒否に係る通信についての通信管理情報の内容として、着信時に通知される相手先識別情報が含まれるため、多数の受信拒否が発生した場合に、受信拒否した相手先を容易に特定することができる。また、受信拒否に係る通信についての通信管理情報の内容として、通信開始時刻が含まれるため、受信拒否した着信がいつごろあったのかを容易に特定することができる。

【0065】

なお、以上説明した実施の形態においては、本発明を通信端末装置の1つであるファクシミリ装置に適用したが、本発明はそれに限らず、着信時に送信元の識別情報が通知される通信形態の通信端末装置であれば、同様に適用可能なものである。着信時に送信元の識別情報が通知される通信形態としては、通信プロトコルにより送信元装置から通知される形態のほか、公衆電話網において提供される発信番号通知サービスのように網自体が送信元の識別情報の通知機能を備えた形態が考えられる。また、インターネット等をネットワークを介した電子メールによるデータのやりとりのように、電子メール受信時に送信元のメールアドレスが通知されるような通信形態に対しても、本発明は同様に適用可能なものである。

【0066】

【発明の効果】

請求項1または2に係る発明によれば、通信端末装置において、受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報が、各件の受信拒否に係る通信ごとに別ページで出力されるのではなく、まとめてリストとして出力されるため、受信拒否に係る通信に関連する情報を集中管理することができ取り扱いが容易になると効果が得られる。

【0067】

請求項3または4に係る発明によれば、通信端末装置において、受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報が、各件の受信拒否に係る通信ごとに別ページで出力されるのではなく、受信拒否した着信に係る通信以外の通常の通信に関連した通信管理情報と一緒にまとめてリストとして出力されるため、受信拒否に係る通信に関連する情報を集中管理することができ取り扱いが容易になるという効果が得られるばかりでなく、通常の通信に関連する情報と、受信拒否の通信に関連する情報を統合管理できるようになる利点がある。

【0068】

請求項5または6に係る発明によれば、通信端末装置において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報が、着信時に通知される相手先識別情報を含むため、多数の受信拒否が発生した場合に、受信拒否した相手先の特定を容易に行うことが可能となるという効果が得られる。

【0069】

請求項7または8に係る発明によれば、通信端末装置において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報が、着信時に前記計時手段から読み出した日時情報を含むため、各件の受信拒否に係る通信について、着信があった時刻を容易に特定することができる効果が得られる。

【0070】

請求項9または10に係る発明によれば、ファクシミリ装置において、受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報が、各件の受信拒否に係る通信ごとに別ページで出力されるのではなく、まとめてリストとして出力されるため、受信拒否に係る通信に関連する情報を集中管理することができ取り扱いが容易になるという効果が得られる。また、受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報のリストを記録紙に記録出力することにより可視出力する場合には、1件1件の受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報をそれぞれ別ページの記録紙に印字する場合と比較して、記録紙の無駄が省ける利点がある。

【0071】

請求項11または12に係る発明によれば、ファクシミリ装置において、受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報が、各件の受信拒否に係る通信ごとに別ページで出力されるのではなく、受信拒否した着信に係る通信以外の通常の通信に関連した通信管理情報と一緒にまとめてリストとして出力されるため、受信拒否に係る通信に関連する情報を集中管理することができ取り扱いが容易になるという効果が得られるばかりでなく、通常の通信に関連する情報と、受信拒否の通信に関連する情報を統合管理できるようになる利点がある。また、受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報を通常の通信に関連した通信管理情報と一緒にリストとして記録紙に記録出力することにより可視出力する場合には、通常の通信に関連した通信管理情報を通信管理レポートとしてリスト出力するのとは別個に、1件1件の受信拒否した着信に係る通信に関連した通信管理情報を、それぞれ別ページの記録紙に印字する場合と比較して、記録紙の無駄がいっそう省ける利点がある。

【0072】

請求項13または14に係る発明によれば、ファクシミリ装置において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報が、着信時に通知される相手先識別情報を含むため、多数の受信拒否が発生した場合に、受信拒否した相手先の特定を容易に行うことが可能となるという効果が得られる。

【0073】

請求項15または16に係る発明によれば、ファクシミリ装置において、前記受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報が、着信時に前記計時手段から読み出した日時情報を含むため、各件の受信拒否に係る通信について、着信があった時刻を容易に特定することが可能となる効果が得られる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置のブロック構成を示す図である。

【図2】

本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置のRAMの記憶内容について示す図である。

【図3】

本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置の操作表示部の、本実施の形態と直接関係する部分以外は図示を省略した配置構成例を示す図である。

【図4】

ファクシミリ送信シーケンスについて示す図である。

【図5】

着信許可相手先登録テーブルの具体的な内容について示す図である。

【図6】

通信管理テーブルの具体的な内容について示す図である。

【図7】

本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置におけるファクシミリ送受信処理手順について示すフローチャートである。

【図8】

図7と共に、本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置におけるファクシミリ送受信処理手順について示すフローチャートである。

【図9】

本発明の実施の形態に係るファクシミリ装置における通信管理レポート出力処理手順について示すフローチャートである。

【図10】

図9に示す処理手順により記録出力される通信管理レポート例について示す図である。

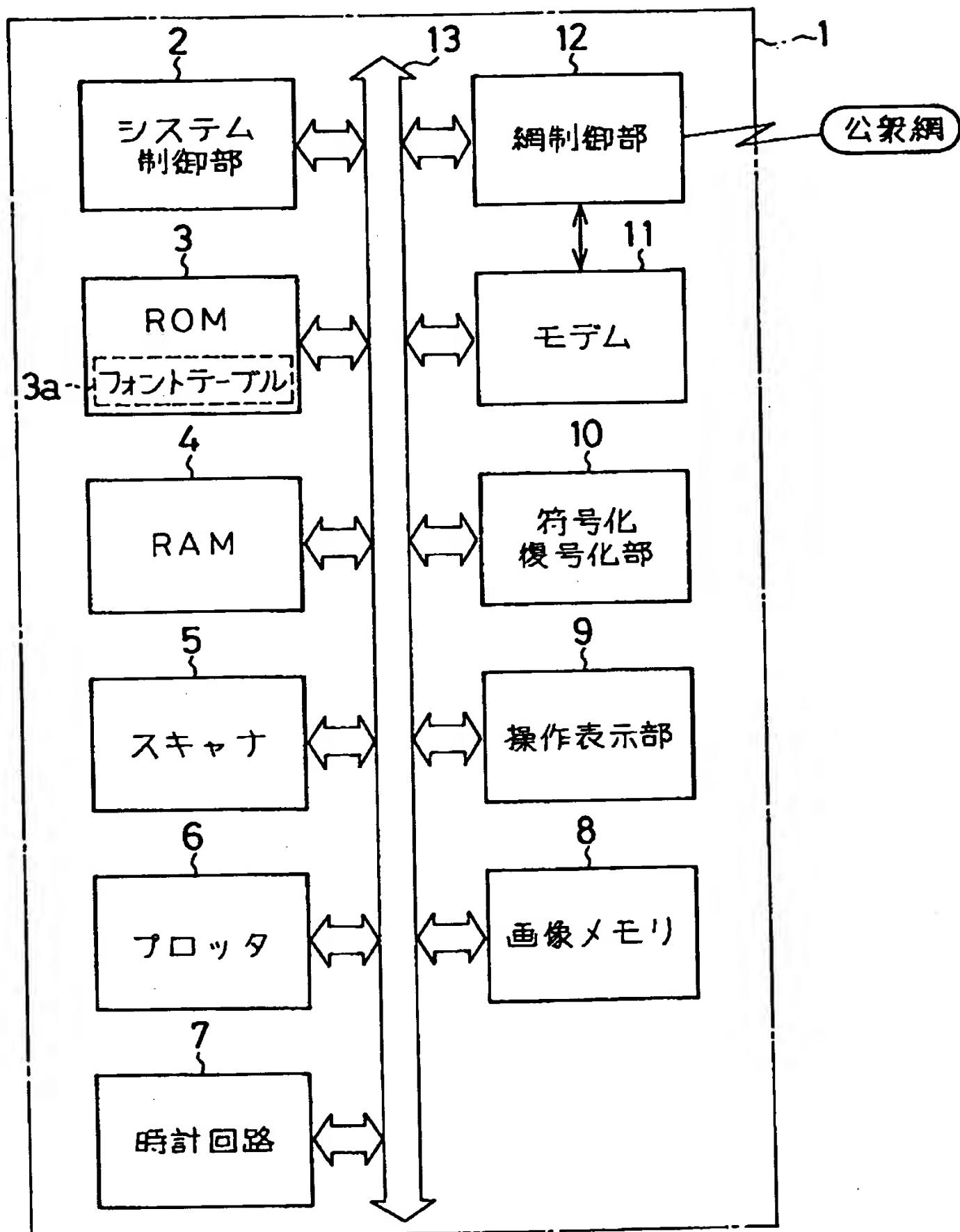
【符号の説明】

- 1 ファクシミリ装置
- 2 システム制御部
- 3 ROM
- 3 a フォントテーブル
- 4 RAM

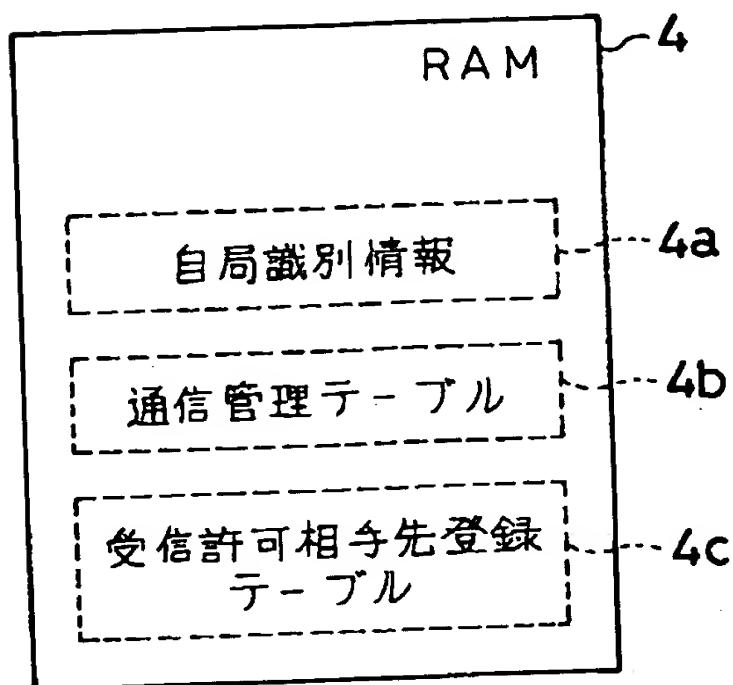
- 4 a 自局識別情報
- 4 b 通信管理テーブル
- 4 c 受信許可相手先登録テーブル
- 5 スキャナ
- 6 プロッタ
- 7 時計回路
- 8 画像メモリ
- 9 操作表示部
 - 9 a テンキー
 - 9 b [スタート]キー
 - 9 c [ストップ]キー
 - 9 d [Y e s]キー
 - 9 e [N o]キー
 - 9 f [ファンクション]
 - 9 g 表示器
- 10 符号化復号化部
- 11 モデム
- 12 網制御部
- 13 システムバス

【書類名】 図面

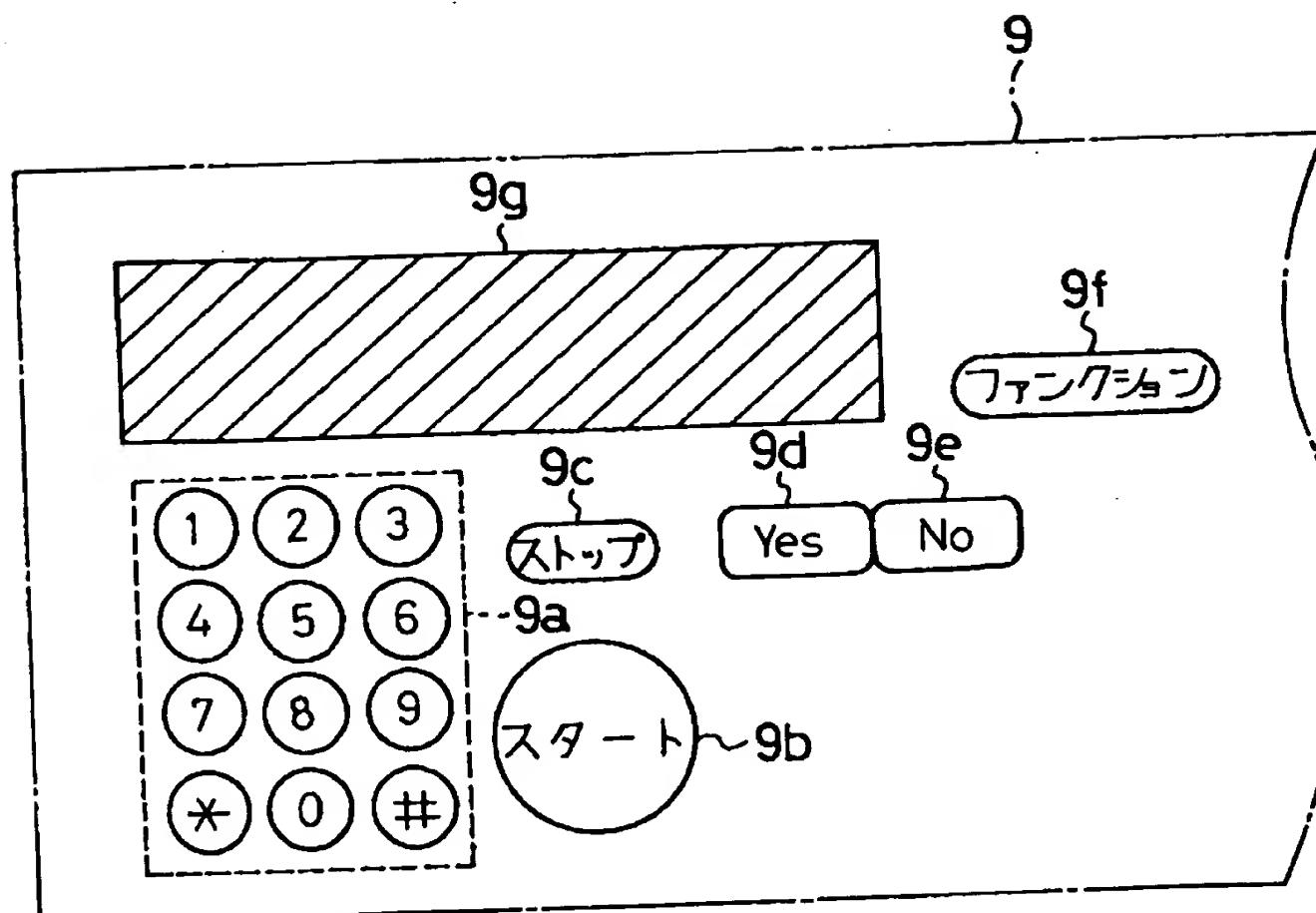
【図1】



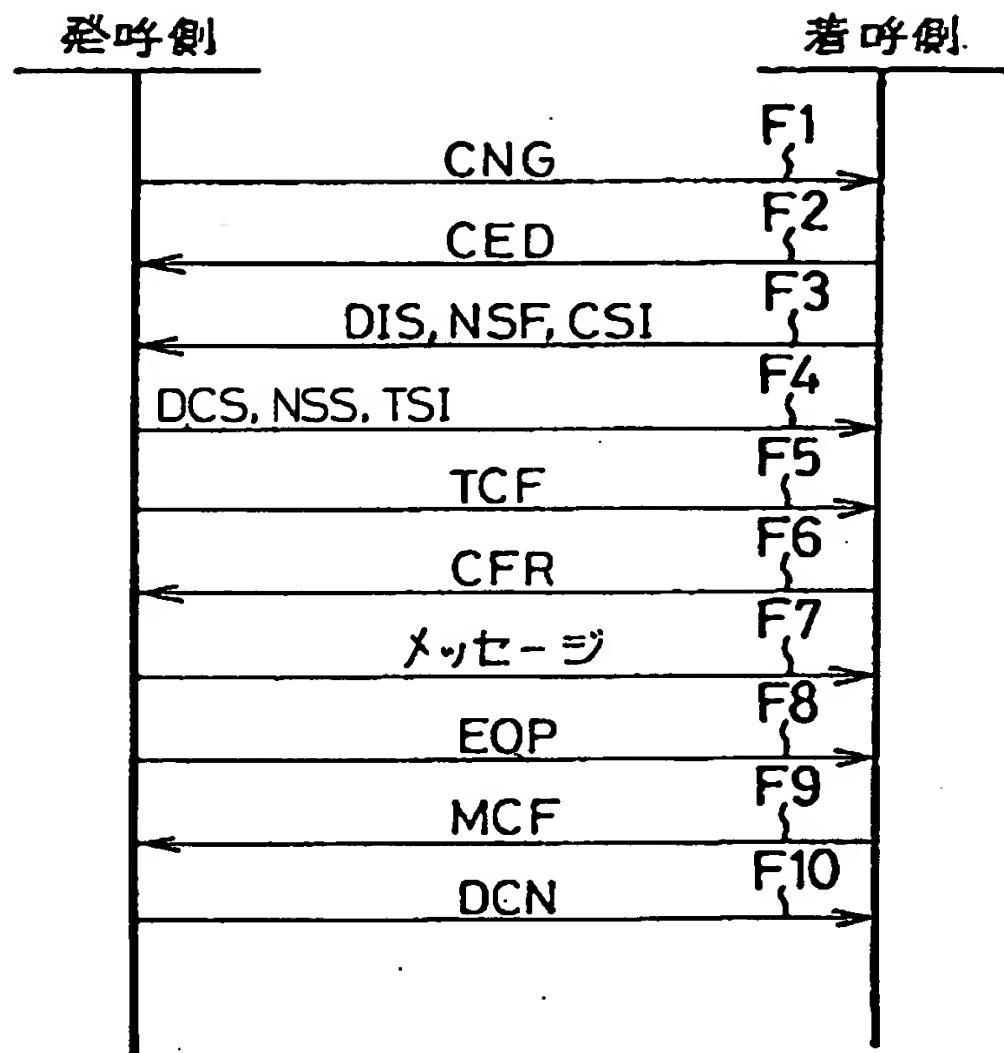
【図2】



【図3】



【図4】



【図5】

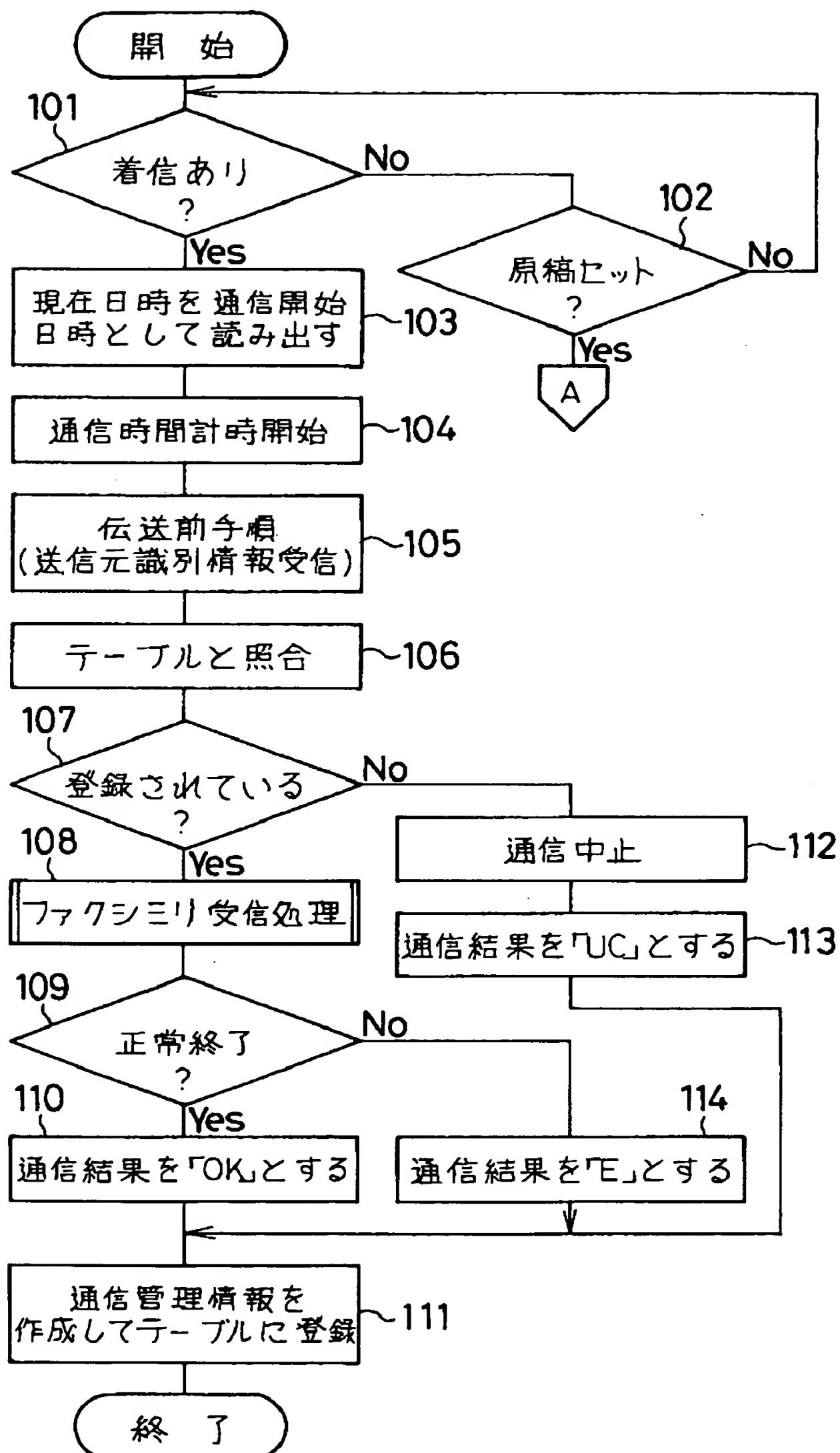
受信許可相手先登録テーブル	～4c
0123456789	
9876543210	
9988887777	
8877775555	
⋮	

[図6]

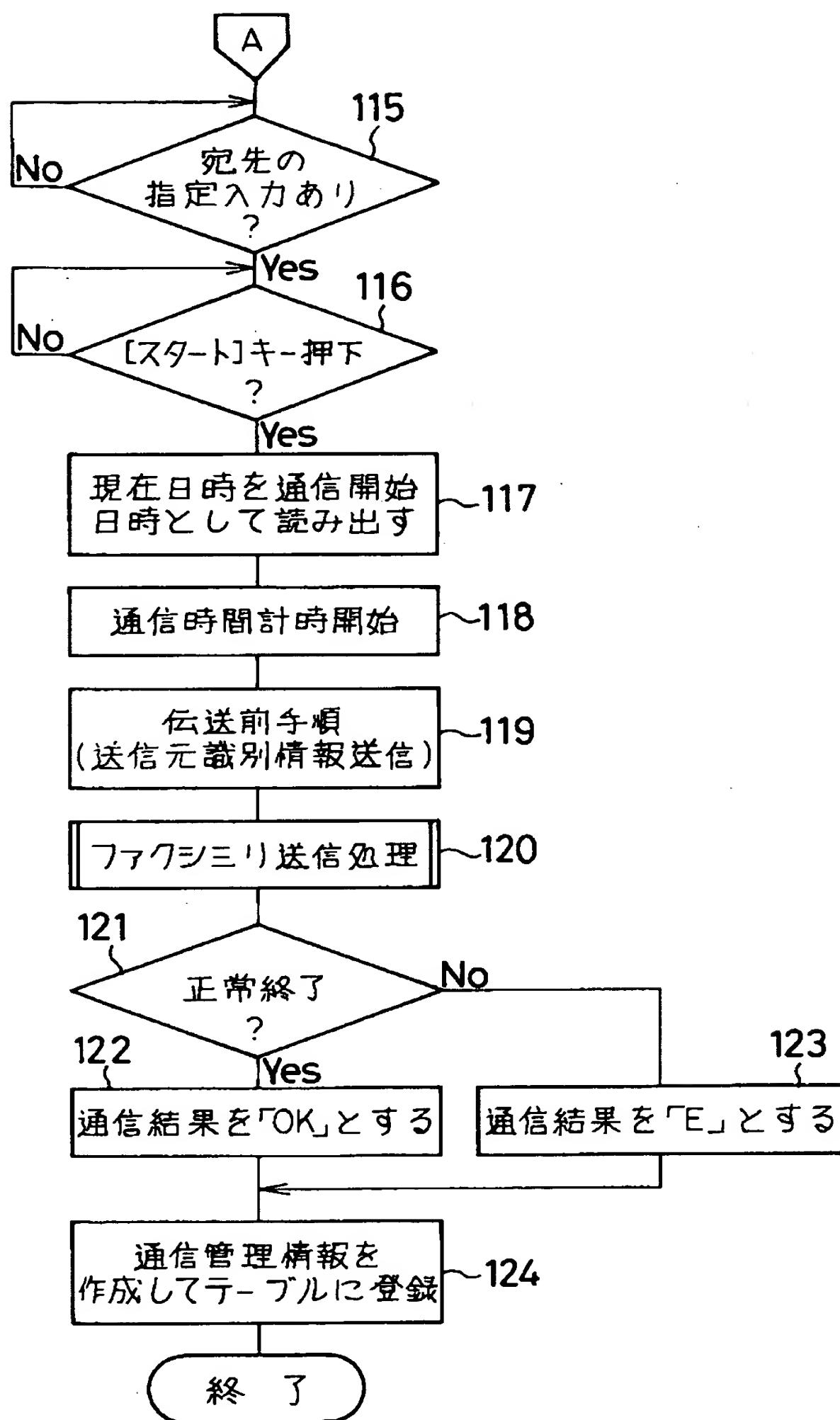
4b

通信管理情報						
レコード番号	ファイル番号	送受信	通信日付	通信開始時刻	通信相手先	交信モード
01	0111	送信	99/05/22	09:05	1122223333	G3EDM
02	0112	受信	99/05/22	10:30	0123456789	G3ES
03	0113	受信	99/05/23	08:12	9876543210	G3S
04	0114	送信	99/05/23	12:15	9988776655	G3ESM
05	0115	受信	99/05/24	14:28	4455556666	G3
		:	:	:	:	UC
		:	:	:	:	:
		:	:	:	:	:

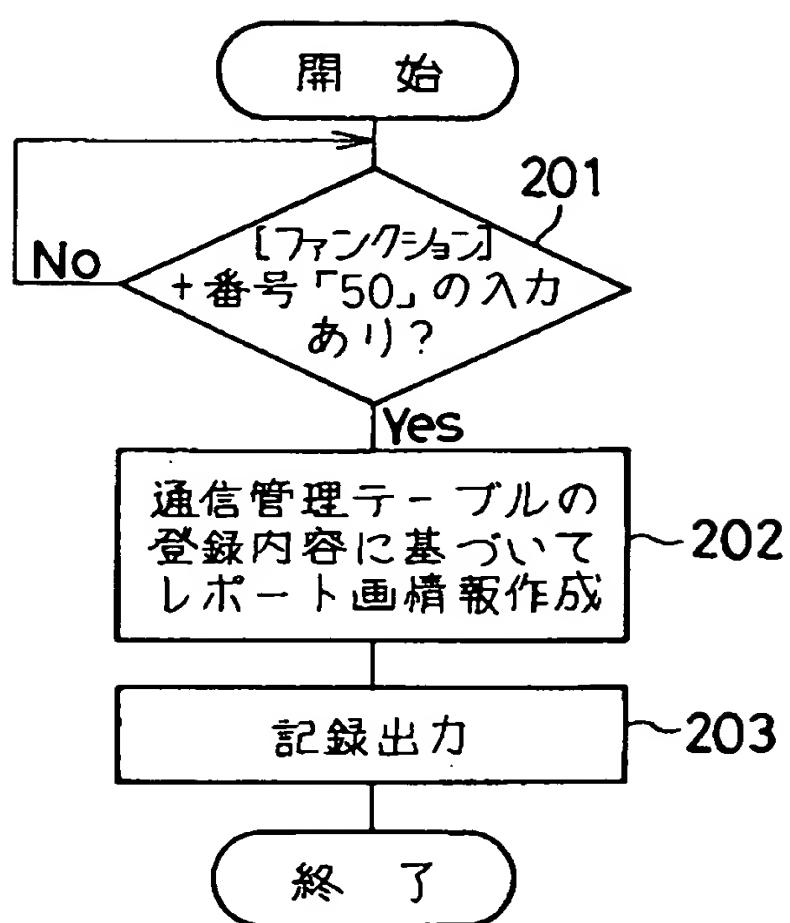
【図7】



【図8】



【図9】



【図 10】

***** 通信管理ポート (99/05/23) *****

《送信》

ファイル番号 通信日付 通信開始時刻 通信相手先 交信モード 通信時間 通信枚数 通信結果

ファイル番号	通信日付	通信開始時刻	通信相手先	交信モード	通信時間	通信枚数	通信結果
0111	99/05/22	09:05	1122223333	G3EDM	0分30秒	2枚	OK
0114	99/05/23	12:15	9988776655	G3ESM	0分23秒	1枚	OK

《受信》

ファイル番号 通信日付 通信開始時刻 通信相手先 交信モード 通信時間 通信枚数 通信結果

ファイル番号	通信日付	通信開始時刻	通信相手先	交信モード	通信時間	通信枚数	通信結果
0112	99/05/22	10:30	0123456789	G3ES	1分00秒	5枚	OK
0113	99/05/23	08:12	9876543210	G3S	5分27秒	21枚	E
0115	99/05/24	14:28	4455556666	G3	0分14秒	0枚	UC

M:蓄積 L:時刻指定 E:ECM S:ふつう字 D:小さな字 F:細かい字

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 受信拒否に係る通信に関連する情報を集中管理することができる通信端末装置を提供すること。

【解決手段】 受信許可相手先登録テーブルに登録されていない相手先からの着信に係る通信に関連した通信管理情報を収集して受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶する受信拒否通信管理手段と、前記受信拒否通信管理情報記憶手段に記憶された通信管理情報に基づいたリスト画情報を作成する通信管理リスト作成手段と、その通信管理リスト作成手段が作成したリスト画情報を可視出力するリスト出力手段とを備えたことを特徴とする。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号

氏 名 株式会社リコー